

映画のある生活 **Lab**
by Shochiku

第2回レポート
調査報告データ集

2018年11月

松竹株式会社

本件に関するお問い合わせ：marketing@shochiku.co.jp

調査目的

映画館での映画鑑賞が日々の生活にどのような影響を及ぼしているかを調査し、映画鑑賞がもたらしている効果や価値を明らかにする。

調査設計

- 調査手法 : インターネット調査
- 調査対象 :
 - ①対象年齢:15～69才男女個人
 - ②地域条件:全国
- 回収サンプル数: 2,230s

	母集団人口	(構成比)	回収数	(構成比)	ウェイト値
男性15-19才	3,090,372	3.5%	174	7.8%	0.45179527
男性20-29才	6,643,116	7.6%	177	7.9%	0.95472597
男性30-39才	8,007,355	9.1%	176	7.9%	1.15732832
男性40-49才	9,784,047	11.2%	185	8.3%	1.34532424
男性50-59才	7,753,023	8.8%	190	8.5%	1.03800068
男性60-69才	8,906,361	10.2%	194	8.7%	1.16782759
女性15-19才	2,942,630	3.4%	181	8.1%	0.41355878
女性20-29才	6,303,049	7.2%	181	8.1%	0.88583386
女性30-39才	7,700,751	8.8%	182	8.2%	1.07632111
女性40-49才	9,506,277	10.8%	198	8.9%	1.22130867
女性50-59才	7,711,759	8.8%	194	8.7%	1.01118795
女性60-69才	9,315,949	10.6%	198	8.9%	1.19685649
合計	87,664,689	100.0%	2,230	100.0%	

※母集団人口…平成29年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口(全国)

- 調査期間 : 2018年6月8(金)～6月11日(月)
- 調査協力 : 株式会社日本リサーチセンター

■第2回レポートの趣旨

第1回のレポート内容である、「映画館での映画鑑賞行為が、“幸福度”を上昇させる」をご覧頂いた方から、ありがたいことに多くの感想やSNS上でのコメントをいただきました。その中に「裕福な人やもともと幸せな人が映画をたくさん見ているだけではないか？」というご意見がありました。

そこで、どういう人が映画鑑賞によって“幸福度”を上昇させているかを掘り下げて分析した結果をご報告します。

※当調査において「生活満足」「充実感」「健康」「生きがい」「希望」の5項目を総じて“幸福度”と定義しています。

■調査結果

人の幸せに影響を与える要因として、「年収」と「家族や友人との人間関係」が大きいことはこれまでの調査研究が明らかにしてきたことであり、本調査においても同様の傾向があります。そこで、「幸福な人かどうか」を区別するために、本調査で聴取した「世帯年収(学生除く)」と、「家族や友人との人間関係は良好である」かどうかを基準にし、次のように属性を6つに区分しました。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 学生×人間関係良好 | 2. 学生×人間関係良好でない |
| 3. 年収700万円未満×人間関係良好 | 4. 年収700万円未満×人間関係良好でない |
| 5. 年収700万円以上×人間関係良好 | 6. 年収700万円以上×人間関係良好でない |

※年収＝世帯年収を社会人のみ聴取 ※学生＝高校生・大学生・専門学校生の合計、世帯年収は不問

※「家族や友人との人間関係は良好である」という設問に、「非常にあてはまる」「ややあてはまる」回答者を人間関係良好、「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」回答者を良好でないとした

映画鑑賞回数と“幸福度”の相関が最も強いのは「2. 学生×人間関係良好でない」層となり、逆に相関が最も弱いのは「5. 年収700万円以上×人間関係良好」層でした。

学生は人間関係良好層においても相関が強く、「1年以内に行った余暇活動」の中で、映画館での映画鑑賞が1位であることから、映画が身近であり“幸福度”を上昇させる役割を担っていると考えられます。

逆に相関が弱かった「5. 年収700万円以上×人間関係良好」層は、趣味が多様かつ一人あたりの実施数も多い特徴があり、国内旅行・海外旅行・ゴルフ・美術鑑賞・スポーツ観戦などの参加率が比較的高いことから、映画鑑賞以外の余暇活動からも幸福を得ているため、相関を弱めている可能性があります。

■結論

人間関係が良好でない人は、映画鑑賞による“幸福度”の上昇率が大きくなります。「年収」や「家族や友人との人間関係」の影響を除外しても、映画館での映画鑑賞は、“幸福度”を上昇させており、多くの人の生活を豊かにする身近な趣味であると考えられます。

もともと幸せな人だけが映画館で映画をたくさん見ているのではなく、年収を問わず学生まで多くの方が映画鑑賞を通じて幸せを得ていることは間違いなさそうです。

1. レジャー・余暇活動

□映画館での映画鑑賞は、学生層で1年以内の実施率が61%で1位。

□世帯年収700万円超層は趣味として行っているレジャー・余暇活動が多様であり、平均実施数も多くなる。

◇1年以内に実施したレジャー・余暇活動と、趣味として行っているレジャー・余暇活動

(%)

	1年以内に行ったレジャー・余暇活動																				
	サンプル数	国内旅行	海外旅行	登山・ハイキング	ウォーキング・ジョギング・マラソン	スポーツジム・フィットネスクラブ	ゴルフ	写真撮影	映画館での映画鑑賞	自宅での映画鑑賞(DVDなど)	自宅でのドラマ鑑賞(DVDなど)	観劇(生の舞台)	クラシック音楽鑑賞(生の演奏会)	美術鑑賞	スポーツ観戦(生の会場)	音楽ライブ・フェス	アニメ鑑賞	ゲーム	読書(小説・新書)	読書(コミック)	あてはまるものはない
全体	2230	59	13	9	26	8	7	19	42	56	51	9	7	14	14	16	24	28	41	24	8
高校生・大学生・専門学校生	383	60	15	10	20	10	3	25	61	53	46	10	8	12	17	25	38	45	43	38	6
世帯年収700万円未満	1339	53	9	7	24	6	5	19	36	55	51	8	6	13	12	14	23	27	39	24	8
世帯年収700万円超	508	73	21	12	33	12	12	20	50	60	53	12	10	19	18	18	19	23	45	20	7

(%)

	趣味として行っているレジャー・余暇活動																				
	サンプル数	国内旅行	海外旅行	登山・ハイキング	ウォーキング・ジョギング・マラソン	スポーツジム・フィットネスクラブ	ゴルフ	写真撮影	映画館での映画鑑賞	自宅での映画鑑賞(DVDなど)	自宅でのドラマ鑑賞(DVDなど)	観劇(生の舞台)	クラシック音楽鑑賞(生の演奏会)	美術鑑賞	スポーツ観戦(生の会場)	音楽ライブ・フェス	アニメ鑑賞	ゲーム	読書(小説・新書)	読書(コミック)	あてはまるものはない
全体	2230	39	9	6	20	6	5	13	24	39	34	6	5	10	10	12	17	21	33	19	15
高校生・大学生・専門学校生	383	33	9	6	14	7	2	14	31	31	25	4	4	7	11	18	28	34	32	28	12
世帯年収700万円未満	1339	35	7	6	19	5	4	13	22	39	35	5	5	9	8	11	18	21	32	20	16
世帯年収700万円超	508	52	16	8	26	9	9	14	29	39	34	7	7	13	14	13	11	16	37	15	12

(%)

	趣味として行っているレジャー・余暇活動の数											
	サンプル数	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個以上	平均値(個数)
全体	2230	15	17	15	14	12	9	6	4	2	6	3.3
高校生・大学生・専門学校生	383	12	19	16	13	14	7	6	4	3	6	3.4
世帯年収700万円未満	1339	16	18	16	13	12	8	7	4	2	5	3.1
世帯年収700万円超	508	12	16	14	16	11	11	5	4	4	8	3.7

2. 映画鑑賞と幸福度

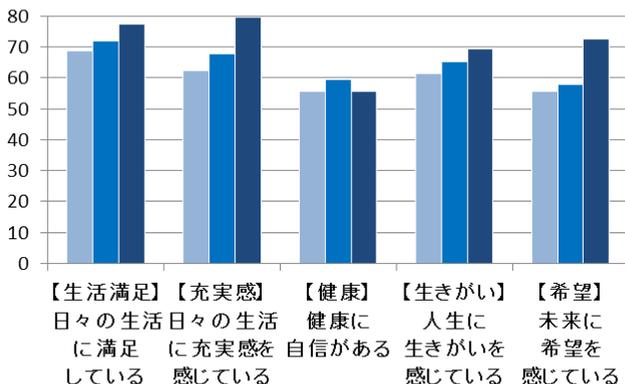
- 第1回調査において映画鑑賞回数別の幸福度をみると、「0回」から「1回」、「4回」から「5回」の間で“幸福度”が上昇する傾向が確認できた為、今回もその基準に当てはめて検証した。
- 映画鑑賞回数と“幸福度”の相関が最も強いのは「学生×人間関係良好でない」層(左下の図)である。

◇映画館での年間映画鑑賞回数と幸福度の関係

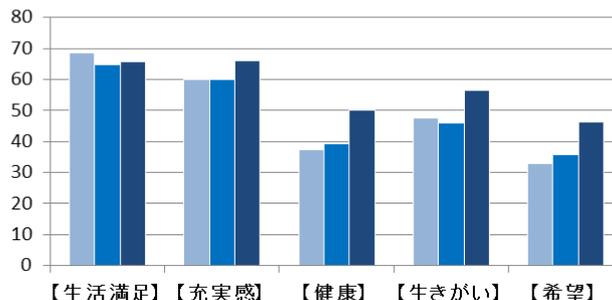
「非常にあてはまる」「ややあてはまる」合計%

年間の映画鑑賞頻度 ■ 0回 ■ 1~4回 ■ 5回以上

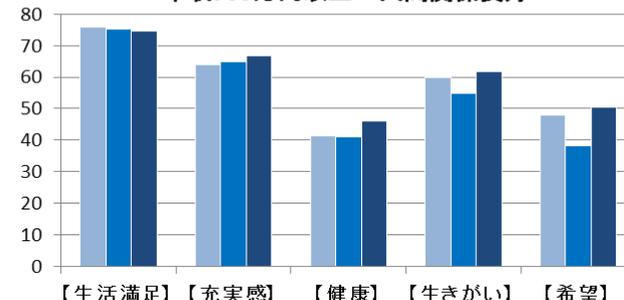
学生×人間関係良好



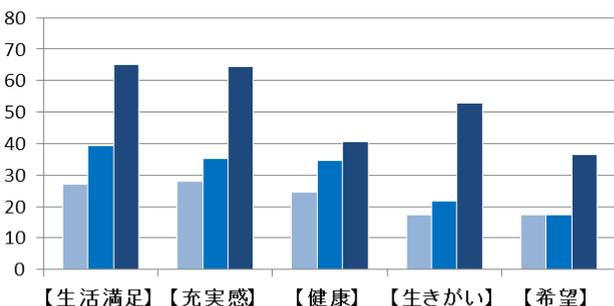
年収700万円未満×人間関係良好



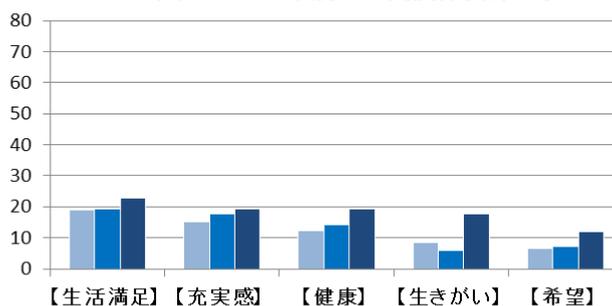
年収700万円以上×人間関係良好



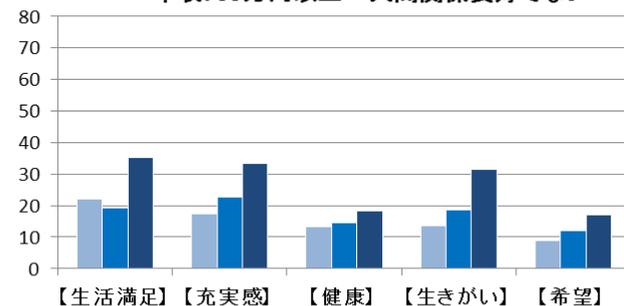
学生×人間関係良好でない



年収700万円未満×人間関係良好でない



年収700万円以上×人間関係良好でない



3. 映画鑑賞者の声

□特に学生において映画鑑賞頻度と“幸福度”の相関が強かった為、別途実施した定性調査より学生の意見を抜粋。

◇映画好きな高校生・大学生に聞く、映画がもたらしてくれること ※2018年6月、10月に実施した定性調査より抜粋

—(映画を見始めたのは)高校に入って友達と映画に行った時に観た映画にとっても感動して、映画ってこんなに嬉しくなったり悲しくなったり泣きたくなったりするものなんだろうって思ったのがきっかけです。

落ち込んだ時に励ましてくれたり、寂しい時に寄り添ってくれたり、元気を貰えたり、泣かせてくれたり、たくさんの感情をくれて日々の生活をより彩りのあるものにしてくれるかけがえのない親友のようなものをもたらしてくれます。(高校生男性)

—ポップコーンと炭酸を片手に、隣の友達に小声で「楽しみだね」とか、予告を見ながら「今度これも一緒に行こうね」と話す時間がすごく好きだし、そういったことから、友達とより仲良くなれたり、話題が増えたりします。(高校生女性)

—一日頃のストレスから解放される時間です。映画を観る時間は僕の唯一現実逃避ができる時間です(笑)。色々なストレスを全て無かったかのようにその時間だけ忘れさせてくれます。(高校生男性)

—色々な時間や空間、人の内側にあるゴタゴタの捉え方があることを教えてくれ、僕達の日常にも無限の可能性が隠されているのではないかというようなワクワク感をもらえます。(大学生男性)

—映画の魅力は違う人生を見られることかなと自分は思います。世の中色々な人間がいるのかもと思うようになりました。もちろん、作品だからフィクションも多いだろうけれど、そんな考え方もあるのかとか日々を大切に生きようって思えます。今では映画のない生活なんて考えられないぐらい(笑)。ワクワクさせてくれる存在です。(大学生女性)

—私に新しい道をもたらしてくれます。何かに迷ったとき、観た作品から背中を押してもらったり、作品を鑑賞していく中で自分でも知らなかった自分の素直な感情が現れたことに気づけたり。映画のなかの2時間は、私にとって、魔法のような時間です。それはこれから先も変わる事が無いと思います。(大学生女性)